

イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/5/28作成 (株)新出光

【概況】<核合意への懸念は残りつつも、底堅い展開>

●21日、イラン核合意の再建に向け、欧州主要国に中国とロシアが加わった前日の会合で、「合意が形成されつつある」とする議長役からの発言が投資家心理を圧迫し、米国もイラン以外の当事国と協議を行っているようで、両国が核開発問題で歩み寄り、イラン産原油の輸出が解禁されれば国際市場の供給量が増加することに対する警戒感から原油が売られる形となりました。

●24日、前日に原油相場で約1カ月ぶりの安値を付けた反動から安値拾いの買いや持ち高調整の買いが入り相場を支えました。米国立ハリケーンセンター(NHC)によると、米石油施設が集積するメキシコ湾岸にある低気圧が熱帯低気圧に発達する可能性があることと発表したことで、石油生産への影響を警戒して原油が買われた面もあります。ただ、イラン産原油が国際市場に流入し、需給が緩むとの警戒感も引き続き材料視され、原油の上値が抑えられました。

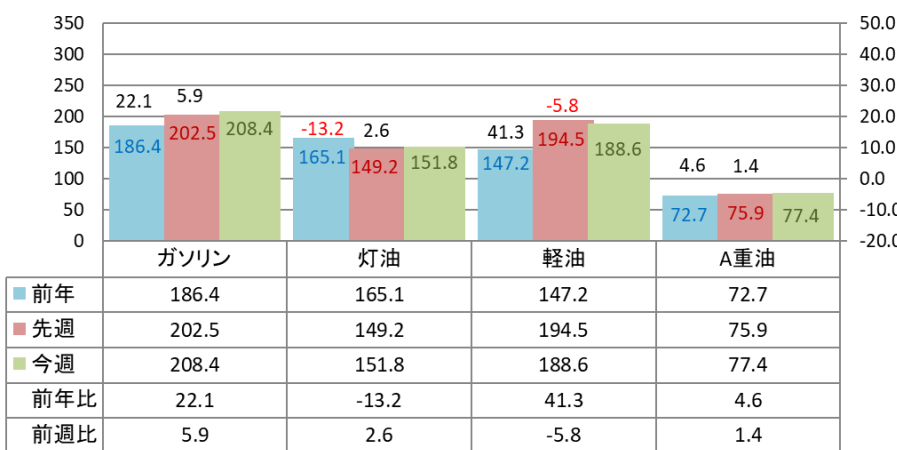
●25日、米などで新型コロナウイルスのワクチン普及と移動規制の緩和が進む中、需要見通しに対する楽観的な見方が相場を支援しました。また米ゴールドマン・サックスが23日、年末にかけて需要は日量460万バレル増加する可能性があるとの分析を明らかにしたこともあり、これらが国際石油市場の供給のだぶつきに対する警戒感を和らげ、相場は上昇しました。

●26日、イラン核合意の当事国である英仏独中ロとイラン、欧州連合(EU)は25日、ウィーンで核合意再建に向けた協議を再開しました。妥結すればイラン産原油の供給が再開されるとの見方が投資家心理を圧迫したものの、米エネルギー情報局(EIA)が公表した週報では、原油在庫と石油製品在庫のいずれも市場予想以上に減少しており、需要の強さを示唆する結果となったため、相場は下げ幅を幾分縮小しました。

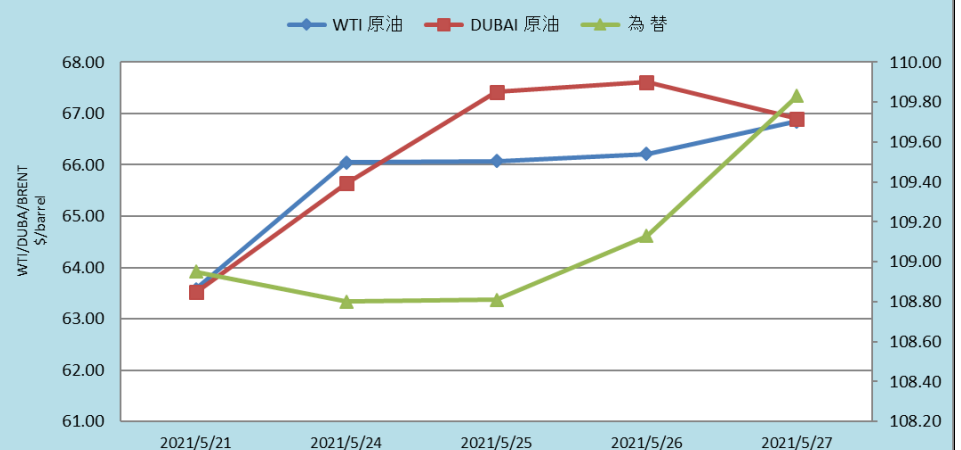
●27日、米各地で新型コロナウイルスワクチンの普及が進む中、夏の行楽シーズンを控えてエネルギー需要見通しに楽観的な見方も広がり、相場の下値は限定的となっています。市場は、6月1日に予定されている「OPECプラス」の会合に注目されており、積極的な売買は手控えられているようです。

5月28日 17:00現在 WTI原油 66.84ドル 為替 1ドル 109.90円

国内石油製品在庫 5月22日時点 単位万kl



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 関連グラフ 単位 円



次回元売変動予測

6/3～ 元売変動予測

ガソリン	➡	+1.0～+1.5
灯油	➡	+1.0～+1.5
軽油	➡	+1.0～+1.5
A重油	➡	+1.0～+1.5
LSA	➡	+1.0～+1.5

【製品卸価格】<市況下げ止まり、リセット前の仮需>

●**今週** 今週の元売り仕切り改定はENEOS・コスモ石油「-0.5円」、出光興産「-1.0円」の値下げ改定でした。月間リンク玉を中心に先行して市況の値下げが進んでいましたので、改定後の市況は小幅の値動きに留まりました。各地で月内販売終了を案内するディーラーも見受けられましたが、市況が反転するほどの勢いはなく、まだ枠消化が順調ではないディーラーも多くいることが要因と思われます。

●**5月29日以降** 次回の元売り改定は、現状の原油コストで「+1.0～+1.5円」の値上げ予測です。次回は原油調整金「0.3円」が加味されると思われますので、原油コスト「+1.2円」と合わせて、「+1.5円」と予測しています。足元の原油相場の上昇に伴い、6月相場が現在よりも高くなることや、月替わりのリセット値上げとなることが想定されるため、週末での仮需が起こっています。販売枠の終了となったディーラーも一層増えてきましたので安値先へのオーダー集中が各地見受けられます。6月の市況は今のところ先高傾向にありますので、改定までは様子見姿勢を続けるディーラーが多くなるのが考えられます。その為、月初は週決め玉が市況を形成する状況となりそうです。

※現段階の原油コストによる予想です。

【次世代エネルギー】<世界初の液化水素運搬船>

24日水素を液化して運ぶ、世界初の運搬船が神戸で公開されました。今年度中にはオーストラリアから水素を輸送する実証実験を始める計画になっているようです。今回公開されたのは、大手機器メーカー川崎重工業が建造した世界で初めてとなる液化水素を運ぶ運搬船「すいそふろんていあ」です。気体の水素を-253度に冷やして液化し、体積を800分の1にすることで大量に効率よく水素を運送することを目指しています。全長は116メートルあり、1回の航行で燃料電池車およそ1万5,000台分の水素を運ぶことができます。水素は使用時に二酸化炭素が発生しないため地球温暖化対策として期待される次世代エネルギーの一つとして期待されています。ただ、現時点では製造コストが高く政府は2030年までに価格を3分の1以下にする目標を掲げています。オーストラリアでは「褐炭」と呼ばれる水分や不純物を多く含む石炭から水素を製造できるため、安い褐炭を原料に使うことで、コスト低減につながるとみられています。

[出典] ①<https://www.sankeibiz.jp/business/news/210526/bsc2105260600003-n1.html>
②<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210525/k10013049271000.html>